

## 平成30年度 第1回学校関係者評価委員会 報告

平成30年6月4日  
教務部

平成30年度第1回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 日時

平成30年6月1日（金） 13:30～15:35

#### 2 場所

本校会議室

#### 3 評価対象から重点目標等の報告

別紙

#### 4 評議員からのご意見・ご感想

○長期休業中の残業状況はどうなっているか。

（学校より） ほぼ17～18時に施錠できている。

○多忙化解消について、具体的な数値目標はあるか。

（学校より） 今、統計をとっている最中で、明確な目標はない。県が出している特別支援学校の目標は、月80時間を越える残業時間の人数を0にすることである。タイムカード制の導入も検討されている。

○企業でも多忙化解消に取り組んでいるが、正確な現状の把握が必要。学校では難しいと思うが、個人的に上限を付けたり、部署で統計をとることも有効。具体的な目標を掲げることが重要である。

○語彙力と学力の因果関係はよく分からないが、卒業後、会社に入ってからでも文章で表現したり、本を読んで勉強したりということはずっと続く。すべての教科で国語力が高まることを期待したい。

○一つでも得意な、好きな教科があると、他の教科への取り組み方も変わる。

○企業にもパワハラ・セクハラがある。被害を受けるのは弱者であり、匿名で相談できる体制をとっている。パワハラ研修では、「いつでも何でも言ってね」と声を待っても言わないと学んだ。こちらから具体的にアプローチをかけて聞き出すことが必要。その点で、いじめ防止の取組にあるように、意識して声かけをしていくことはとても有効である。

○各授業で教師が手話や指文字、プロジェクター等を使用して伝え方を工夫していた。学力が身に付いていくと感じる。

## 【別紙】

### ◆本校の課題

- (1) 中学部から高等部本科・専攻科までの一貫教育を通して、自立と社会参加に向けた教育活動を展開する。
- (2) 生徒の障害特性や発達段階に応じて教育課程を工夫・改善するなど、個に応じた指導を一層展開する。
- (3) 障害の状態等に応じ、音声、文字、手話等のコミュニケーション手段の適切な活用を図り、確かな日本語力をもとにした豊かなコミュニケーション力を育成する。
- (4) 基礎学力の向上に努めるとともに、生活に生きる学力となるようにする。
- (5) 保護者や関係諸機関と連携し、「個別の教育(移行)支援計画」の作成・実施・評価を適正に行い、個々の生徒のニーズに応じた指導・支援を展開する。
- (6) 小・中・高等学校の要請に応じて、聴覚障害のある児童生徒に対する教育相談、通級による指導を行うなど、地域の聴覚障害支援センターの役割を果たす。
- (7) 魅力ある学校、特色ある学校、さらに開かれた学校づくりを進めるために、学校評価を通して、教育内容の質的向上を図る。
- (8) 多忙化解消に向けて、施錠時間や月3回の定時退校日を徹底する。また、業務の効率を図るため、職員全体で見直しを進める。

### ◆めざす学校像

『生徒一人一人の自己実現のために、安定して継続した学びができる学校』

- (1) 基礎学力の向上、継続した学び支援
  - ・生徒の実態把握に努め、適切で実行可能な教育計画・指導計画を作成する。
  - ・生徒一人一人の実態に応じた分かりやすい授業をめざし、常に授業改善に努める。
  - ・多様なコミュニケーション方法を用いて、言語活動の充実を図る。
  - ・タブレット端末の活用など、ICT教育をより一層推進する。
  - ・多様なニーズに応じた教育課程を編成する。
- (2) 生徒に寄り添った生徒指導
  - ・自分を大切にする心、人を思いやる心、感謝する心を育成する。
  - ・いじめ等の早期発見、早期対応に努める。
  - ・生徒指導上の問題に対し、教職員の共通理解の下、学校として迅速に対応する。
  - ・保護者と問題を共有し、関係機関等との連携を深める。
- (3) 生徒の適性を重視したキャリア教育
  - ・個々の障害や発達段階に応じたキャリア教育を充実する。
  - ・多様な進路に対応できるように、情報の収集と発信に努める。
  - ・挨拶やマナーの定着を図る。

## ◆各評価対象の目標等

### ◀授業改善に向けた取組▶

教科	重点目標	具体的方策	留意事項
国語	○理解し、使いこなせる語彙を増やし、文章読解や作文の基礎的な力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字テストと併せて語句の意味テストを行う。</li> <li>授業の中で、語句の意味を説明したり、対義語や類義語を学習したりする機会を設け、語彙の拡充を図る。</li> <li>生徒の実態に応じて、辞書の引き方やノートの書き方、板書の視写の仕方、小テストに向けた勉強の仕方などを指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部、高等部全学年共通で取り組む。</li> <li>各学年で、語句のテストの作成を行い、データの共有をして今後も活用できるようにする。</li> <li>学習の内容を振り返り、繰り返し学習できるように小テストの内容を定期テストで出題する。</li> </ul>

教科	重点目標	具体的方策	留意事項
地歴公民	○主体的に学び、考える力を育てる授業を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に学ぶことができるようにするために、1時間の授業の流れを明確にする。</li> <li>話し合いがスムーズにいくために、話し合う視点を絞る。</li> <li>ペア交流等話し合う環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の流れが視覚的に分かるような掲示を行う。</li> <li>話し合うための発問を工夫する。</li> <li>ペア交流等の話し合いの仕方を指導する。</li> <li>月に1回程度科会を開き、授業や生徒等の情報交換を行う。</li> </ul>

教科	重点目標	具体的方策	留意事項
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○解を導く過程を的確に理解し、類題に積極的に取り組む態度を養う。</li> <li>○習得したことを説明する力を培うように働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を理解する上で効果的であった視覚的な教材やその提示の仕方について、継続的に情報交換をする。</li> <li>日々の授業の中で、仲間とともに課題を解決したり、考え方を共有したりする場面を日常的に設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後に求められる数学に関する基礎基本を教員間で共通理解した上で日々の指導にあたる。</li> <li>数学用語に関する手話表現を統一し、生徒がスムーズに学習内容を理解できるようにする。</li> <li>定理等の応用の仕方や接続詞等の使い方にも注目し例題等の解法を的確に読み取ることができるようにする。</li> </ul>

教科	重点目標	具体的方策	留意事項
理科	○生徒が知識を増やし、理解を深める指導法の確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な研究を参考に指導法を改善し実践する。</li> <li>既習学習を繰り返し確認する。また、生徒が教科書の内容を説明したり、テストを頻繁に行ったりするなどアウトプットできる機会を多くつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導の効果については同形式で行うテストの点数の変化で確認する。</li> <li>授業の進度が遅れないようにする。</li> </ul>

教科	重点目標	具体的方策	留意事項
外国語	○英語の語彙力向上を図り、基礎的な言語力の拡充を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校独自にレベル分けした英単語テストを作成し、各授業内で定期的実施する。その際、単語の意味、発音だけでなく、一般動詞の三単現や過去形など、語形変化も出題する。</li> <li>・テスト結果を振り返り、生徒が自分に適したレベルのテストに挑戦できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部ごとに英検や大学入試対策など、用途に応じてレベル調整ができるようにする。</li> <li>・英語の語彙力を英文の読解力へ結び付けることができるよう、英文を読む問題に取り組む時間も確保する。</li> <li>・1～2か月に1回科会を開き、情報交換をする。</li> </ul>

### 《いじめ防止に向けた取組》

重点目標	具体的方策	留意事項
○いじめの早期発見に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報集約担当（生徒指導主事）が、生徒情報を文章化した「週報」を作成し、関係する教員と共有することで、生徒の状況を把握しやすくする。</li> <li>・担当が一人で悩まないように、養護教諭や相談担当と連携し、「保健室」や「心の相談室」の活用を促す。</li> <li>・「週報」を活用し、生徒指導主事、相談担当、養護教諭等で意見交換する場を週に1回設ける。</li> <li>・年4回いじめ不登校対策委員会（定期）を開き、いじめ問題に組織的に取り組むための「いじめ防止基本方針」の確認や生活アンケートの結果報告を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒情報を共有する際には、進捗状況を確認するとともに個人情報取扱に気を付ける。</li> <li>・学年主任を中心に、教員間の連携促進をお願いしていく。</li> <li>・教員が1人で抱え込まない環境づくり、また生徒がSOSを出せる環境づくりを職員間で意識し、教育活動にあたるように声かけをしていく。</li> </ul>

### 《多忙化解消に向けた取組》

重点目標	具体的方策	留意事項
○仕事の効率化や在校時間の縮小に取り組みながら、教員が自己の健康管理や働き方に対する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校務分掌で業務を整理し、マニュアル化を進める。</li> <li>・水曜日を部活動休養日とする。</li> <li>・平常は20：00を施錠時刻とする。定時退校日は18：00を施錠時刻とし、月3回設定する。</li> <li>・施錠時刻と年休取得の統計をとり、働き方の傾向や変化を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校務分掌のマニュアルを一つのマニュアル集にまとめ、内容を周知して有効活用する。</li> <li>・有意義な時間の使い方について生徒に指導する。</li> <li>・部活動を実施しない日に定時退校日を設定する。</li> <li>・教頭・部主事は勤務状況を観察して個別に相談や面談を行い、長時間労働の改善や年休取得の促進を図る。</li> <li>・月別、部別、校務分掌別など、多面的に考察する。</li> </ul>